

# 1 椅子に座って採血したときと横になって採血したときで、検査の値が異なるって本当ですか？

本当です。なぜかという、座ると重力で血液が足のほうにたまり、血管内の水分が血管外へ漏れるため、腕から採血したとき、いわゆる濃い血液が採血されるのです。立って採血したときは、さらに濃い血液となります。一方、横になって採血したときは血液の成分が均等になるので、座ったり立ったりして採血したときよりも薄い血液となります。

実際には立ったまま採血することはないのですが、外来などで歩いてきて、すぐに椅子に座って採血した場合、検査データに大きな影響を与えてしまうことになります。

## 検査のはなし vol.9

### 専門医が教える 検査値異常の判断法 ⑦

# 「体位で異なる検査の値」について



日本臨床検査専門医会  
松尾 収二

## 2 どんな検査に、どれくらい影響するのですか？

大きな影響を受けるのは、血液細胞、蛋白、脂肪など血管を通りにくい粒の大きな成分です。代表的な検査として、赤血球数、ヘモグロビン、総蛋白、アルブミン、総コレステロール、コリンエステラーゼ、 $\gamma$ -GT ( $\gamma$ -GTP)、免疫グロブリンなどがあげられます。

どれくらい影響するかというと、横になって採血したときの値を基準とすると、座って採血したときはだいたい5%程度高くなります。ただし、ほとんど影響ないときもあれば1割程度高くなるときもあります。ところが立って採血した場合、すなわち歩いてすぐに座って採血した場合、1～2割高い値になります。座って30分程しないと元に戻りません。

## 3 入院したら、ベッドで横になったまま採血したり、座ったりして採血しますが、検査データに大きな違いが出るのではないですか。大丈夫ですか？

そうです。違いが出るのです。具体例として、貧血の判断に用いられるヘモグロビンをあげて説明します。外来で立って待っていた、歩いてすぐに採血したといった条件が重なりヘモグロン15 g/dLであったのが、入院して横になって採血すると13.0～14.0 g/dLとなることがあります。大したことはないと思われるかもしれませんが、消化管に病気を持っている人であれば、出血しているかもしれないと考えてしまうのです。栄養状態を判断するアルブミンなら、外来では4.0g/dLが3.5g/dLとなって、患者さんの様態が悪くなったのではないかと疑ってしまうのです。

## 4 医師はこのことを知っているのですか？

知識としては持っていますが、どのような体位で採血されたかまではわかりません。そこで、採血を受ける側としては、立ったまま待たずに椅子に腰掛けて待つ、歩いてきたときは椅子で休む（少なくとも10分程度）などして、採血を受ける条件を同じにするように心がけるしかありません。もし気になる場合は、採血を担当する臨床検査技師や看護師に相談するとよいでしょう。

